

各位

お詫びと獣医療安全対策について

令和2年1月15日、生後2ヶ月齢920gのラヴィちゃん(T.ブードル)が同居猫ちゃんによる皮膚咬傷及び裂傷により御来院頂きました。受傷部は皮膚欠損部が大きく、飼い主様は幾度も治療方針の適正を確認され不安を抱かれましたが、当時の当院での判断と致しましては、早期機能回復及び感染拡大防止を目的に全身麻酔下における外科的治療を提案させて頂き実施致しました。治療過程における手術中の全身麻酔状態は良好でしたが、手術が終了し気管チューブを抜管後に心肺停止状態に至り、心肺蘇生処置を実施しましたが、誠に残念ながらお亡くなりになりました。心よりラヴィちゃんの御冥福をお祈りさせて頂くと共に御家族の皆様に深くお詫び申し上げます。

飼い主様は整形外科・形成外科・麻酔科に精通されておられる開業医師の方で、御指摘を頂いております。主な御指摘内容は、治療選択(インフォームドコンセント含む)及び全身麻酔管理の二点です。皮膚欠損部は内科的治療でも治癒可能な理論を細かく御教授頂き、また全身麻酔法におきましても、手術箇所により多種多様な薬剤の選択、疼痛コントロール、覚醒タイミング等の御指摘を頂いております。当院と致しましても納得出来る理論であり、今回の事案に関して、治療選定及び麻酔管理に不行届きがあったと猛省しております。なお、手術開始時刻が外来診療遅延により遅れた上、御連絡の不備も重なり大変御心配をおかけ致しました。

当院では年間約1000件の全身麻酔を実施しておりますが、1件でもこのような事案が発生してしまっただけを極めて重く受け止めております。飼い主様からのラヴィちゃんの死を無駄にしないで欲しいという強い想いに責任をもって応えるべく、今後職員が一層一丸となって、動物医療の質を向上すべく邁進し、以下の再発防止及び安全対策を講じていく所存でございます。

治療選択について

手術適応と判断した場合において、担当医のみならず複数人の獣医師の総合判断にて再考し、的確な判断を行い最良な治療法の確立を目指す。動物及び飼い主様の立場に寄り添い、あらゆる治療選択肢及びリスクを御説明し、合意の上決定する。

全身麻酔について

獣医麻酔科専門医を招聘し、当院での全身麻酔管理及び疼痛管理をさらに細分化させ、より確実で安全な管理を行えるように体制を整える。かつ、当院所属獣医師の知識・技術の向上を目指す。

甚だ簡単ではございますが、取り急ぎ当院からのお詫びと再発防止のお約束を申し上げます。

令和2年1月20日

上本町どうぶつ病院

中西崇之 杉山愛佳 中尾奨吾